

東京の観光振興を考える有識者会議 議事録

令和6年12月5日（木）13：00～14：30
都庁第一本庁舎7階大会議室

【江村観光部長】

お待たせいたしました。これより東京の観光振興を考える有識者会議を開会いたします。

本日は、御多忙の中、御出席いただきまして、誠にありがとうございます。

議事に入るまでの間、私、産業労働局観光部長の江村が進行役を務めさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

まず、本日の資料を確認いたします。

お手元には、議事次第、座席表、資料1の委員等名簿、資料2の本会議の設置要綱をお配りしております。資料3及び4の江戸の歴史・文化部会及びナイトタイム観光部会の議論概要、資料5及び6の江戸の歴史・文化を活かした観光及びナイトタイム観光の取組の方向性、資料7のナイトタイム観光に関する調査の概要、資料8の委員からの主な意見につきましては、卓上のタブレット端末で御覧いただけます。

端末は御自由に操作いただけますが、事務局がページ送りを行った場合は皆様の端末にも同じページが表示されますので、あらかじめ御承知おきください。

続いて、マイクの操作について申し上げます。

御発言の際、マイクの右側のボタンを押し、赤いランプが点灯してから御発言いただきますようお願いいたします。御発言が終わりましたら、再度右側のボタンを押してマイクをオフにしていただきますようお願いいたします。

次に、委員の皆様の出席状況を御報告します。

本日は、委員15名中9名の皆様に御出席いただいております。小巻委員はオンラインで御参加いただいております。出席者の御紹介につきましては、座席表の配付をもって代えさせていただきます。

それでは、次第に沿って進めさせていただきます。

初めに、本会議の座長の選任を行います。

本会議の設置要綱では、座長は委員の互選により選任することとなっておりますが、いかがでしょうか。牧野委員、お願いします。

【牧野委員】

座長には佐藤委員をお願いしたいと思います。

【江村観光部長】

ただいま牧野委員より佐藤委員を座長にとの御推薦がございましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。

（「異議なし」と声あり）

【江村観光部長】

それでは、佐藤委員に座長をお願いしたいと思います。

この後の議事進行につきましては、佐藤座長にお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【佐藤座長】

ただいま座長に選任されました佐藤でございます。これで3年目となりますけれども、これまでの2年間と同じく、委員の皆様の御協力を得て座長の任務を果たしてまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

それでは、早速ですが、2024年度の第1回目の東京の観光振興を考える有識者会議の議事を進行させていただきます。

さて、本年2月13日に開催されました本有識者会議におきまして、小池知事が「江戸の歴史・文化を活かした観光」と「東京のナイトタイム観光」という2つのテーマをお示しになり、これらについて専門的な議論を行うために、本有識者会議の下に2つの部会が設置されました。

本日は、この2つの部会の部会長から部会における議論の概要を報告していただいた上で、「江戸の歴史・文化を活かした観光」と「東京のナイトタイム観光」という2つのテーマについて、委員の皆様にご意見交換をしていただくことになっております。

それでは、初めに、小池知事から一言御挨拶をお願いいたします。

【小池知事】

皆様、こんにちは。今日も東京の観光振興を考える有識者会議にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。

今御説明を座長のほうからいただきましたように、これまで江戸の歴史・文化、そしてナイトタイム観光、この2つの部会で、それぞれの分野に造詣の深い皆様方に御議論を賜ってきたところでございます。魅力的なアイデアを頂戴しておりまして、ぜひともこれを活かしていく、また、両部会の座長をお務めくださいました田川委員、そして牧野委員に改めて感謝申し上げたいと存じます。ありがとうございます。

改めまして、江戸の時代なんですけど、約260年間の鎖国の中においていろいろなユニークな文化が育まれていったのは、言うまでもございません。当時、世界最大の人口を抱えていたのが江戸でございます。先駆的な循環型社会を築き、また舟運、舟で回る、それが経済、物流を担っていた。そして、食の文化、芸能文化などなど花開いたのが江戸の時期でございます。奥深い独自の魅力を江戸ブランドとして国内外に発信していくのに最も相応しいのではないかと考えております。

昨日ですか、文化庁が「伝統的酒造り」のこうじを使った酒造り技術、これを無形文化財としたということでございます。その意味では、江戸にはいろんな文化、そしていろんな生活とアート、こういったものがぎゅうぎゅうと押し込められているような、そういう歴史と、そして内容があるかと思えます。

そして、ナイトタイムのほうでございますが、そのポテンシャルを戦略的に活用することも重要でございます。

今年、もう年末が近づいてきておりますけれども、大晦日の夜にこの都民広場を活用して、今のプロジェクションマッピングもそうでございますし、カウントダウンイベントを開いていこうという考えであります。伝統と革新をテーマにしまして、トークショー、ライブ、そして、この壁の大きさはギネス級ではなくてギネスでもう登録されておりますので、そこを使って、そして、海外からのお客様も含めてたくさんの方々に御来場いただけるようにしていきたいと思えます。

あいにく愛之助さんに来ていただこうとしていたら、おけがをなさったということで、早期の御回復を願うとともに、今、いろいろとまた考えているところでございます。

長くなりましたけれども、今日は、田川委員、牧野委員から部会での議論の概要の御報告を賜ります。また、部会での議論を踏まえて東京の観光振興の方向性もまとめていただきたいと思います。

江戸時代からの歴史・文化を磨き上げて、夜の時間帯、一層充実させていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いを申し上げます。

ありがとうございます。

【佐藤座長】

知事、ありがとうございます。

それでは、まず、江戸の歴史・文化部会の座長をお務めになりました田川委員から部会での議論の御報告をお願いいたします。

【田川委員】

田川でございます。

それでは、部会の御報告をさせていただきます。

資料3の『江戸』の魅力と価値を再考する～江戸の歴史・文化部会における議論の概要～を御覧いただきたいと思います。

部会でのこれまでの議論をまとめておりますので、簡単にお話をしたいと思います。

まず、1ページ目ではありますが、江戸の歴史・文化部会には御覧の委員の方々に御参加をいただきました。静岡市歴史博物館の館長で、大河ドラマの時代考証などでも御活躍の大石学さん。テレビで江戸城の案内役として登場なさっている、江戸都市史の研究者の後藤宏樹さん。徳川家の現御当主でいらっしゃいます徳川家広さん。それから、徳川ミュージアムの館長の徳川眞木さん。YouTubeや書籍などを通じて江戸の魅力を発信されている歴史タレント・歴史作家の堀口茉純さん。多彩な方をお呼びして部会を構成いたしました。

5月から10月にかけて3回開催し、プレゼンテーションいただくとともに意見交換を重ね

てまいりました。

2 ページ目を御覧ください。部会の資料の抜粋で、論点などをまとめたものであります。

世界遺産も見据えて、「江戸から続く伝統」を掘り下げていこうということで、インバウンド誘客への活用や旅行者への伝え方などについて議論を交わしました。

3 ページ目を御覧ください。議論のポイントを大きくまとめております。

学術的な見地、観光客の目線などから、皆様から様々な御意見を頂戴いたしました。

大きくりに分けますと、「江戸」の特色と独自性、今も息づく「江戸」とその歴史的価値、あるいは観光における活用の工夫という3つの切り口で御議論をいただいたところでありました。

4 ページ目には、まず、『江戸』の特色・独自性』についてであります。

江戸の町の成り立ちに根差した特色という観点では、徳川家広委員から、大石委員から、戦乱後の「平和」な時代の町として、仏教・茶道・能が果たした役割の重要性や、藩邸を通じて全国諸都市と交流するといった特性について御知見をいただきました。また、時代と地名の両面があるということも「江戸」の大きな特徴だというふうに考えております。

先ほど知事からもお話があったように、260年以上にわたる長きにわたって維持された「平和」については、これはやはり非常に貴重で、世界的に見ても客観的・普遍的な価値を有するものだと思います。大石委員からは、様々な落首や川柳を御紹介いただきながら、庶民の高いリテラシーが平和の礎であったと、大変興味深いお話をいただきました。

また、非常に多くの人々が暮らす中で安全・清潔が保たれているという今の東京の特徴も江戸に根差しているという、そういった話も頂戴をしたところでございます。

6 ページ目を御覧ください。次に、「今も息づく『江戸』とその歴史的価値」であります。

現代の東京に受け継がれる江戸の遺産について、様々な知見をいただきました。

まずは、建築遺産。江戸城の石垣や城門、櫓など非常に良い形で残っており、大名庭園もよく保存されていると後藤委員などから御紹介いただきました。また、寺社仏閣も当時の風格を今に伝えているということでございます。

7 ページ目を御覧ください。

土木遺産も見逃せないところだというふうに思います。特に「水」は江戸を語る上で欠かせない重要なテーマであります。玉川上水をはじめ江戸の初期に整備された浄水インフラは、今でも都民の生活を支えております。また、江戸を中心とした五街道の整備によって自由・安全に旅行することが可能となり、全国規模の文化交流が進んだといったお話もいただきました。

文化という面では、歌舞伎や落語、浮世絵などは貴重な遺産であることは言うまでもありませんが、江戸の文化は街並みや食文化においても形を変えながら脈々と受け継がれていると、興味深いお話を伺いました。

8 ページ目を御覧ください。次に、「観光における活用の工夫」であります。

この観点では、まず、徳川眞木委員から、庭園が有する奥深い魅力とその楽しみ方についてプレゼンテーションいただきました。また、堀口委員からは、水路を活かして川から見る観光や体験型コンテンツの活かし方などについて御意見を頂戴したところでございます。

9 ページ目でございますが、葵の御紋をはじめとした印象的なビジュアルや、AR・VRなどデジタル技術の活用といったアイデアも頂戴いたしました。

また、江戸の歴史・文化に対する都民の理解や愛着を醸成していくことが大切であるといった趣旨の御意見もいただきました。これは複数の委員からもいただきまして、いかに江戸の時代のことを都民に伝えていくかということが重要だということでございます。

10 ページ目に、以上を踏まえまして議論を総くくりしますと、「江戸」を観光資源として活用する余地が大きいことは間違いないところで、世界遺産として打ち出していくことは効果的であろうということが1点。次に、江戸が持つ奥深い魅力に旅行者が触れられるよう工夫を凝らしていくべきであること。そして、この街に住む都民の「江戸」への理解や愛着を育んでいくことが重要であると。この3点が大きな眼目であったかと思っております。

私の感想では、各委員からいただいた260年以上にわたる歴史の中で育まれたいろんな出来事とその背景について、もう一度しっかりと勉強して見つめ直していくことが重要で、その中から新しいコンテンツをつくり出していく、見せていくということが重要だというふうと考えており

ます。

私からは以上であります。

【佐藤座長】

田川委員、ありがとうございます。

江戸の歴史・文化部会では、平和でありますとか、安全、清潔でありますとか、建築、文化、それから土木に係る遺産でありますとか、多彩な議論が行われたというふうに理解をいたしました。

それでは、続きまして、ナイトタイム観光部会の座長をお務めいただきました牧野委員から部会での議論の報告をお願いいたします。

【牧野委員】

それでは、部会の報告をさせていただきます。

資料『「東京の夜」を次のステージへ～ナイトタイム観光部会における議論の概要～』についてお話しさせていただきます。

まず、1ページ目で、ナイトタイム観光部会では、以下の委員の皆さんに御参加いただきました。元「dancyu」編集長の植野広生さん、日本総合研究所研究員でナイトタイムエコノミーについてレポートを出筆されました高坂晶子さん、またナイトタイムエコノミー推進協議会の代表理事で弁護士の齋藤貴弘さん、ぴあ総合研究所の所長でライブエンターテインメント業界にお詳しい笹井裕子さんに御参加いただきました。

こちら5月から10月にかけて3回会議を開催いたしまして、プレゼンテーションいただきながら意見交換してまいりました。

次を御覧ください。こちらのページは事務局のほうで論点を整理したのになっています。

主な論点のところを見ていただくと、「東京ならでは」の打ち出しであったりとか、民間・地域の取組の活性化、旅行者への情報の届け方、チケット手配の課題、旅行者の安全・安心の確保、住民の理解を得たナイトタイムの観光の振興といった論点について議論させていただきました。

次のページ、お願いします。こちらは第1回の部会での議論を踏まえた論点の再整理なので割愛させていただきます、次のページに行かせていただきます。こちらが議論のまとめです。

まず、ナイトタイム観光における「東京らしさ」とは何かということについてまとめています。

まず、こちら、ウォークアブル、歩いて楽しめる街であること、また、観光資源が豊富で多種多様であることが皆様もこれまで議論であったと思いますが、こういったことについてお話しさせていただきました。植野委員から「EAT、BEAT、ART」というキーワードで表現いただきました。

次、お願いします。次に、旅行者を惹きつけるために何をすべきかということについての議論です。

こちら、様々な切り口がありまして、まず、地域での取組を推進していくこと。そこで成功事例をモデル的につくって、地域の課題にフィットしたサポートがあるとよいといった意見を齋藤委員からいただいています。

観光客向けに限らず多種多様な観光につながるコンテンツということで、夜桜など、日本人が日常的に楽しんでいるものも観光コンテンツとして非常に強力であるといったような話があったりとか、また、データを継続的に取っていくことが大切であり、海外の取組も参考になるので、そうした事例も参考にしながらナイトタイムコンテンツについて考えていくといったことも話に出てきました。

インパクトのある象徴的なイベントということで、まず、東京という街の魅力を知っていただくためのフック（きっかけ）として、こうした印象的なイベントというものもあったほうが良いというような意見もありました。

ナイトタイム観光を進めていく上で、まずどういった観光都市に、東京がなりたいたいのかということのビジョンを持って考えていくということも大事だということで、ベトナムのホイアンがランタンというような、テーマ性を持ったものがあつたほうが良いということの意見もありました。

次、お願いします。次に、旅行者へのサポートについてです。

これは、旅行者への情報発信が大切ということがありました。調査の中でも、東京に来る外国人旅行者が東京の夜で何を楽しめばいいかわからないという課題がありましたので、情報発信が大切だということで、この議論を特にしてまいりました。部会では、ナビゲーションやガイドの

重要性、ナイトタイム観光ガイドみたいなものがあったとしてもいいんじゃないかという議論であったり指摘をいただいたりとか、あとは、あまりに東京は広くて観光コンテンツが様々なものがあるので、旅行者の方々が混乱しないように、地域ごとにテーマ別で紹介するといったような、分かりやすくして紹介していくといいのではないかとということもありました。英語での情報発信もまだまだ足りていないものがありまして、観光コンテンツが多様であるということを見ていくと、まだ紹介し切れていない夜のコンテンツもあるので、そういったものもきちんと情報発信していくほうがいいというような意見がありました。

チケット手配に関してですが、夜のコンテンツが、エンターテインメントコンテンツが日本にないということではなくて、チケットの購入の仕方が難しいのではないかと議論、こちらでもあったと思いますが、チケット手配についての御意見を笹井委員からいただきまして、現在、チケットの不正転売の防止のために本人確認を非常に厳格にやっているということで、海外の人が買いづらい状況になっているのではないかと御指摘いただきました。また、コンテンツによっては、英語のチケットサイトを設けてインバウンド対応するということをされている主催者、事業者の方もいらっしゃるんですが、まだまだ全体的な取組ではなく個別だということが見つけづらい課題ではないかと御指摘いただきました。

次に行きます。次に、住民や事業者の関係性はどうかということについても意見がかなり出まして、これが今回この部会での議論の特徴だったというふうに考えています。

ナイトタイムエコノミーに関わる事業者、地域住民が話し合えるような場が必要であるということだったりとか、何らかイベントをやっていくに当たって、地域の事業者の方々が関われるような形で仕組みをつくっていくことが大事だということが意見としてありました。

部会における議論のまとめとなっています。

以上を踏まえてまとめとなりますが、東京のナイトタイム観光のコンテンツになり得るものは、バリエーションは非常に豊富であって、日常シーンも観光資源となり得るというふうに考えておりますし、また、独特で魅力的な文化・風習もあるというふうに考えています。そのため、ポテンシャルは非常に高いので、どうこうしたものを旅行者の方に伝えていくかということが重要だということになっています。

次に、東京の夜の楽しさに気づいてもらうために、フラッグシップ、旗印となるようなインパクトのあるイベントを開催していくことも重要であって、そうしたことが観光都市として国際競争力を高めて東京の魅力を紹介していくことにつながっていくというふうに考えました。

3つ目に、地域ごとに夜を盛り上げていこうという行政による旗振りが重要だというふうに思っていて、地域で何らか取組を行う際には、住民、事業者も関わることで、観光客のためだけではなく、「東京の夜」を皆さんと一緒につくっていくことが求められるということだというふうに考えています。

以上がナイトタイム観光部会の議論の概要の報告になります。

【佐藤座長】

牧野委員、ありがとうございました。

持続可能性ということが言われるわけでありましてけれども、持続可能性の確保のためには、経済、環境、地域の3つのバランスが取れていることが必要だというふうにも言われています。ナイトタイム観光部会では、経済ばかりでなく、地域、あるいは地域住民にも適切に目配りをした議論が行われたというふうに理解をいたしました。

それでは、ここまでの報告をお聞きになって小池知事から何かコメントはございますでしょうか。

【小池知事】

ありがとうございます。いろいろとおまとめいただき、分かりやすく、また力を入れるところなどおまとめいただいたものかと思えます。

特にやっぱりこれだけインバウンドが増えてきて、そして、人気どころも人がたくさん集まっていますけど、一方で、まだまだ知られていないところとか、それをどうやってアピールしていくか。もともと海外からの方は国によってそれぞれ好みが変わったりしますし、それぞれの国のインフルエンサーをつかまえてくるとか、そういったきめの細かい対応が必要なのかなという

ふうに思います。

あと、江戸の歴史と文化部会ですけれども、徳川家の皆様方にお入りいただいて、そして、江戸の魅力や価値を様々な視点で掘り下げていただきました。

ナイトタイム観光については、やっぱり外で、みんな日本人が二次会に行かなくなったので、夜のお店が早々と閉じてしまって、海外から来た方たちはセブンイレブンの前で飲んでいるんですね。もったいないなと思うんですよね、本当に。だから、その辺りをより——24時間しかないのはどの国でも一緒に、その時間をどう付加価値をつけるかだと思うんですよね。せっかく楽しんでいただけるはずの東京の夜をね。またポテンシャルの大きさを改めて見直していきたいと思います。

さっき「GOTOKYO」をまた調べていたんですけれども、マップになるといきなり日本語になっちゃうんですよね。なかなかたどり着けないですね。いろいろまた工夫をお願いします。

あと、特にAIの技術はもう存分に使うべきだというふうに改めて感じさせていただくような報告書でした。

ありがとうございました。

【佐藤座長】

小池知事、ありがとうございました。

小池知事は、御都合によりここで御退席となります。

【小池知事】

アトキンソンさん、ごみの捨て方はどうアピールしたらいいんですか、海外の人に。みんな「東京はごみ箱がない」と言うんですけれども、ごみ箱がないのがポリシーでもあり、環境政策でもあるんですけど。

【アトキンソン委員】

ごみ箱は、ポリシーであっても、やっぱり現実性がないなと思います。要するに、別に海外からごみを持ってきたわけでもないし、家に持って帰らなさいと言って、別に海外に持っていけるわけでもないの、国内で買ったもののごみが発生しているじゃないですか。

日本人であれば、要するに生活をしている中でごみ箱に接することができますけども、外国人は1日観光しているということになると、1日中ずっとそのまま持ち続けていくということで、もう夕方になるとかなりの量になってしまうわけなので、おっしゃるように、住民視線のごみの捨て方というのは、観光客としては現実性がないんですよね。

例えば京都で見てみますと、1回そういうのを全部なくしてしまったんですけども、もうたまの一方で、どこかで誰かが置いていけばそこにどんと山ができちゃうので、何をしているかという、さっきおっしゃったようにデジタルを使っていて、一定量のごみになると自動的に収集をするような形になっていて、要するに特定の観光客が集まりやすいところに設置せざるを得ないという結論になっているかと思います。

ですから、全てにあるという必要はないんですけども、集まりやすいところにやっぱり設置してもらったほうがいい。

これは1つの考え方なんですけども、コンビニが要するにどこにもあるということで、前はコンビニの皆さん、会社の皆さんに、外に置いてあったじゃないですか、そうすると余計にそういった、捨てるんだから、中に入れて捨てづらくしたということなんですけども、場合によっては、コンビニの皆さんに都のほうからある程度支援をしていって、そこでやってもらうというのは1つとしてはあるんですけど、事実としては、外国人が1日中で要するに買っているものの中で昼間の間に発生しているのはコンビニからが多いわけなので、コンビニの対応をどうするかということが1つとしてあるのと、あと、観光地で、例えば、分からないですけど、江戸城とか、浅草とか、もう仕方がないと思いますね。

この間、久しぶりにロンドンに行ってきましたけども、少ない中で観光客が集まるところに徹底的に置いてあって、ごみ箱を確認すればネットにつながっていて、そのときそのときにあふれないように対応しているんだなというのは確認をしてきたんですけど、やっぱり特定のところには置かざるを得ないと思います。

【小池知事】

ありがとうございます。

【アトキンソン委員】

あと、知事、1ついいですか、もうあれですけど。

1つだけ私のほうからお伝えしたいことがあるんですけども、今年、2024年の場合は大体3,700万人の外国人のインバウンドになること、もうそれはほぼ確定なんですけども、分析の仕方によりますけども、2024年を見ると前年比に対して大体4割から5割ぐらい増えてはいますけども、季節調整をして前月に対して見てみると伸び率がほとんど伸びていないんです。そうすると、来年になりますと、こんなに上がっちゃったんだからベース効果が出てきますので、大体6%から、よくても10%ぐらいの増加にとどまるということになっているわけなんです。

そうすると、東京都の観光戦略というのは、日本全体の観光戦略の中心的な一番大きいところですので、やはり皆さんのところで、この来年に関してはもうこれで止まりそうなところに行っているの、4,000万人を実現するための戦略が実行されてきたんですけども、4,000万人に近いところに来ましたので、ここで止まっていて、6,000万人に持っていくためにどうすればいいのかというのは、新しいことをやらなきゃいけないということで、今日のチケットの問題をどうするかなどなど、やっぱり東京の観光戦略というのは、6,000万人に持っていくための全く新しい取組が必要なんじゃないかと思っております。

そうじゃなければ、2026年になると多分1%か2%ぐらいで止まっていて、下手すれば後退していくということも。要する初めて来た人が抜けちゃいますので。ぜひ知事の戦略でさらに盛り上げていただきたいということは厚かましく要望させていただきます。

【小池知事】

いえいえ。ありがとうございます。

【田川委員】

今、知事がおっしゃったごみ箱の話は、この間、アンケートで見たら、東京は汚いというのは数%で、裏を返せばきれいというふうに。それを維持するためには、やっぱりごみ箱の設置というのが必要だと。

今、いろんなごみ箱があって、圧縮してごみを少なくするようなごみ箱とか、いろんなごみ箱の種類があるので、これはごみ箱会社に聞いて、一番最適なごみ箱を、やっぱり観光客にとっての最適ごみ箱というのを、これは東京都が考えたら一番いいのかなと。そういう要請を、専門家の皆さんに見せたらいいと思うんですよ。

京都は、今、デービッドさんが言ったように象徴的に始めたんですけども、限界があるんだよね、正直言うと。ただ、やっぱりごみ箱というのは、昔、東京は結構たくさんあったんですけども、テロの問題とかがあって1回消しちゃったんですけども、やっぱりごみ箱の種類も含めて少しお考えいただいたほうがいいかな。

昔、歩行者天国があったときに、日清食品のカップラーメンを捨てる場所がなくて、ごみ箱を初め日清さんが置いたことがあってですね。これ、テレビドラマでもやっていましたが。ごみ箱のやり方によっては、逆にきれいというふうに。

ディズニーランドなんかそのいい典型だというように思いますので、そういうものを、街々で一番合ったごみ箱を設置するみたいなことを、特に23区内を考えたらいいのかなと、そんな感じがします。

【小池知事】

今、リピーターをどう活用するのかというのは、例えばディズニーなどのリピーター戦略などはまさしくビジネス戦略の実態を捉えていると思いますので、そういったところも含めてお話しいただきたいのと、今回、ナイトタイム、それから江戸という切り口、来年で言うとデフリンピックと世界陸上がありますので、そういうイベント関係といろいろ協力していきたいと思っております。

【滝委員】

東京でも海外の人たちに人気のある場所もありますけど、いま高齢化の中の相続税の問題等で、その魅力を維持できなくなるかもしれない。その辺のところ、国との関係になると思うんですけども、考えないと。せっかくの江戸からの歴史的な街並みがなくなってしまうので、相続税の問題はいろんな形を考えなければ、ファンも含めて、と思っております。

【小池知事】

ありがとうございます。
本当に皆さんありがとうございます。
それでは、これにて退室いたしたいと思います。ありがとうございました。
(小池知事退室)

【佐藤座長】

それでは、続きまして、事務局から両部会での議論を踏まえた取組の方向性についての説明をお願いいたします。

【前田観光振興担当部長】

それでは、まず、「江戸の歴史・文化を活かした観光の一層の推進に向けた取組の方向性」について御説明をいたします。

初めに、江戸の歴史・文化を活かした観光を推進する意義でございますけれども、平和が長く続きまして、世界最大の人口を誇った江戸には、多彩な文化が花開く、それから土木技術など今も息づく江戸の歴史・文化は、貴重な魅力となっております。

それから、このアイコン・キャッチフレーズ「Tokyo Tokyo」ですけれども、江戸から続く伝統と最先端の文化が共存する東京の特色を表しておりまして、東京の観光振興の大きな柱としてこの江戸の歴史・文化の活用となります。

ただし、この江戸の歴史・文化は多彩で奥深く、旅行者が理解して楽しむためには工夫が必要というところがございます。

そして、東京の観光を振興する上では、都民や事業者が地元の文化や歴史など地域の魅力に理解や愛着を高めていくということが重要であると考えております。

都の取組の方向性でございますけれども、部会の議論を踏まえまして、御覧の3つの方向性で推進してまいりたいと思っております。

まず、「『江戸』を知る」につきましては、江戸の歴史・文化の都民や事業者等との共有ということでございます。旅行者を迎える上で、地元の歴史や文化を人々が理解し、愛着を持っていることは重要でございます。そこで、東京に今も息づく江戸の歴史や文化の価値、魅力などを共有する機会をつくとともに、地元の文化財等を活かした地域の観光振興の取組を支援してまいります。

また、子どもや若者が江戸の歴史・文化に親しむ機会の提供としまして、江戸文化に接するきっかけづくりやデジタルコンテンツなどを活用して、文化財への興味・関心を喚起してまいります。

「『江戸』を発信する」につきましては、国際的な認知度の向上に向けましてPRを強化し、世界の「EDO」としての印象づけ、それから、江戸から続く伝統にそういった関心を抱く旅行者の獲得を促進してまいります。

また、旅行者に江戸の魅力の本質を理解し楽しんでもらうために、建造物などにつきまして旅行者に分かりやすく紹介するコンテンツを使い発信するとともに、江戸東京博物館のリニューアルオープンを控えておりますので、そのオープンに向けてのPRを行いまして、旅行者の期待感を醸成してまいりたいと思っております。

最後に、「『江戸』を楽しむ」についてでございますが、江戸の歴史・文化というのは本当に多種多様でございますけれども、日本各地にも江戸時代の文化等を感じられる観光地が多数存在します。そこで、都内の名所の回遊をサポートするほかにも、日本各地とも連携をいたしまして、江戸時代をテーマにそれぞれの観光スポット等を発信し、旅行者の国内の周遊を推進してまいりたいと考えております。

地域の事業者による取組の推進としましては、江戸の情緒を感じられる街並みを創出する街単位での取組を支援するとともに、旅行事業者等が江戸の歴史・文化について知見を深める機会の提供や、魅力ある観光ルートの開発を支援してまいりたいと考えております。

続きまして、資料6「東京のナイトタイム観光のさらなる充実に向けた取組の方向性」について御説明いたします。

まず、その意義でございますけれども、ナイトタイム観光の活性化は、旅行者の満足度の向上

や消費の拡大、雇用の創出につながります。東京の治安の良さを活かせるほか、観光需要の時間的な分散による日中の混雑緩和にも寄与します。ナイトタイム観光の一層の充実、東京の観光都市としての国際競争力を強化し、世界最高の「PRIME 観光都市・東京」をつくり上げていく上で不可欠でございます。

ナイトタイム観光において目指す姿といたしましては、「ナイトタイムも活気に溢れ、旅行者と都民が共に夜を満喫できる東京」というふうにさせていただいております。

続きまして、取組の方向性でございます。部会の議論を踏まえまして、御覧の3つの方向性でナイトタイム観光を推進してまいります。

まず、1つ目の「地域に根差したナイトタイム観光の充実」でございます。

地域の特色を活かしたナイトタイム観光の推進としましては、繁華街から自然まで多彩なエリアが広がる東京では、地域ごとに強みや解決すべき課題が異なっておりますので、地元ならではの強みを活かし、地域が主体となるナイトタイム観光振興をサポートし、効果的な誘客や消費の拡大を推進いたします。

また、ナイトタイム観光を持続可能なものとするために、住民の生活環境等への配慮や、住民や事業者との課題の共有を促してまいります。

次に、「民間の力などを活かした多彩な夜間コンテンツの提供」でございます。

民間によるナイトタイム観光振興の活性化としては、都内各地の民間が主体となったイベント実施等を支援するとともに、旅行者の行動や意識に関する情報や海外先進事例の蓄積・共有を行ってビジネス展開を後押ししてまいりたいと考えております。

ナイトタイムに楽しめる場所や施設が豊富であることは、東京の強みでございます。旅行者の様々なニーズに応じていくため、プロジェクトマップなど光のコンテンツを遊客や消費拡大に活用するとともに、都立公園や美術館の活用、ユニークベニューの利用促進など、旅行者に多彩な夜の過ごし方を提供してまいります。

最後に、「より快適なナイトタイム観光に向けた旅行者サポートの強化」としまして、東京の観光公式サイトの活用などにより、ナイトタイム観光についての情報提供や円滑なチケット購入を推進いたします。また、観光シーズン等を捉えまして、東京の夜の魅力を旅行者に効果的に情報発信をしてまいりたいと考えております。

また、多言語対応や安心・安全の確保等の推進として、右下にありますとおり、外国人旅行者からは言語の壁について不満とする声があり、都としましても、宿泊施設をはじめとしたインバウンドが利用する施設や店舗等での多言語対応を引き続き推進するとともに、地域の実情に応じた旅行者の安全・安心の確保に向けた取組をサポートしてまいります。

続きまして、東京を訪れた経験のある海外在住の外国人の方を対象に、今年の7月から8月にかけてアンケート調査を行いましたので、その結果を御紹介します。

まず、18時以降の夜間に行った夕食以外の活動をお尋ねしましたところ、18時以降、ほぼ全ての旅行者が夕食以外に何らかのアクティビティを楽しんでいるということです。活動の内容としましては、こちらを御覧のとおり、買物や散策、観光名所の訪問、夕食とは別の店での飲食といった順になってございます。

続きまして、夕食を食べ始めた時間は17時から20時頃が多く、施設に戻った時間としましては、多くの旅行者が23時頃までには戻っているという結果でした。

続きまして、ナイトタイム観光の満足度ですが、買物やライトアップをはじめ、おおむね全てのアクティビティで「満足」と答えた方が8割を超えておりまして、現状では高い評価をいただいているということが分かりました。

一方で、全体に不満を感じたという点は、多くはございませんけれども、先ほど資料で御紹介しましたとおり、「言語の壁」を挙げた方が最も多いという結果になりました。

海外の観光都市と比べた東京の評価でございますけれども、食事のおいしさ、それから多彩な観光スポットの評価が高く、清潔さ、治安の良さと一緒に続いております。

他方、同様に海外都市と比較した課題ということにつきましては、食事代や交通などに関する声はありますものの、際立った課題というのは特に見られませんでした。

事務局からの説明は以上でございます。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、意見交換に入りたいと思います。

まず、本日御欠席の委員から事前にコメントをいただいておりますので、事務局より御紹介いただきます。

【前田観光振興担当部長】

まず、石井委員からは、江戸時代のサステナブルなライフスタイルを知ること、温故知新の精神で、新たなエコツーリズムをつなげていくことができる。それから、明治や大正時代というのも魅力的ではないかということ。それから、昼にできることを夜にも楽しめるというのも非常に意義があるけれども、星空、夜ならではの面白さというものを追求していくのもよいのではないかと。それから、江戸の歴史・文化とナイトタイムというのをつなげまして、都内の歴史的文化財をライトアップして、これを回るといような観光ルートを提案したいと。ライトアップによって、歴史的建造物の魅力を引き出すということができるのではないかと御意見をいただいております。

田中委員からは、江戸の部会でいただいた知見を活かして、その背景にある文化や伝統、それから日本人が何を大切にしてきたのかということを理解してもらえるように工夫していくことが大切ではないかということと、大学などの協力を得て、江戸の歴史・文化をアカデミックツーリズムというふうにして楽しんでもいいのではないかと。江戸の風情を楽しめるゾーンをつくっていくことも有効ではないかと。それから、SNSの発信というのもありますけども、人のコンシェルジュによるレコメンドなんかでナイトタイム観光を楽しむなど、人のつながりも大切にしていけたらという御意見でございます。

続きまして、根木委員からは、パリのオリンピック・パラリンピック大会でエッフェル塔ですとか凱旋門がフィーチャーされていたように、東京も伝統的な建造物などをもっとアピールできるとよいのではないかと。夜は安全な通路などがライティングされているので意外と車椅子でも移動しやすく、ナイトタイム観光はユニバーサルに楽しめるものだと思いますと。また、比較的涼しい夜間は、スポーツを観光コンテンツとしてもっと活かしていけるのではないかと。それから、言語の壁の課題という調査結果がありましたが、手話も言語の1つ。デフリンピックを契機として、手話や文字でのコミュニケーションを促進するなど、様々な障害に伴う「言語の壁」の解消が進むとよいという意見をいただいております。

それから、星野委員。今に残る「江戸」としては、水路が分かりやすいと。魅力的な水路を活かした景観は、東京ならではの魅力になる。水戸と連携することで、観光客の分散ですとかリピーターの増加になるのではないかと。それから、ナイトタイムの過ごし方としては、まず夕食ですけども、特定のお店に外国人が集中しているので、もっと評判とされるべき良いレストランは東京にもたくさんあるので、分散が図られるべきだろうと。それから、ライドシェアについては、やはり旅行者の分散を図る上では重要で、東京は広いので、遅い時間帯に郊外から都心に戻ってくるための手段としては大切だという御意見でございます。

最後に、マリ・クリスティーン委員からは、江戸が「水の都」であったということは魅力的で、リサイクルが進んだサステナブルな町だったということも江戸の魅力として強調していいのではないかと。江戸と日本各地の藩との交流を通じて様々な文化が江戸に集まっていて、世界中の食を楽しめるなど、東京のコスモポリタンな性格というのがこうした交流を通じて育まれたのではないかと。それから、ナイトタイム観光については、インターネットでチケットを購入しやすい環境の整備が進むとよいと。また、まだまだ海外に紹介されていない魅力的なコンテンツがたくさんあるので、掘り起こして発信することが大切。こうした御意見をいただきました。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御意見をいただきます。

江戸の歴史・文化について、あるいはナイトタイム観光について、または両方についてでも結構ですので、御意見や御感想をいただければと思います。恐縮でございますけれども、時間が限られておりますので、お一人当たり4分から5分というところでお願いをいたしたいと思っております。

まず、オンラインで御参加の小巻委員からお願いをいたします。

【小巻委員】

小巻でございます。よろしくお願いいたします。聞こえていますでしょうか。【佐藤座長】はい。

【小巻委員】

よろしくお願いいたします。

私のほうは、ナイトタイム観光について、まず感じるところをお伝えしたいというふうに思います。

今までのおまとめやほかの委員の方の御意見、ほぼほぼそのとおりでというふうに共感しておりますけれども、1点、近々で、私どもテーマパークのほうで10月26日にオールナイトのイベントをしました。これは毎年行われているものなんですけれども、ふだんであれば18時に閉まるテーマパークが夜9時からさらにオープンをしまして、明け方まで行うハロウィンのパーティーなんですけれども、そちらのアンケート結果のほうから汎用性のある今後のナイトタイム観光への課題というのが見えましたので、そちらをちょっと共有したいなというふうに思っております。

おおむね非日常を味わえたというところで、96%以上満足、非常に満足というアンケート結果をいただいております。

このハロウィンのオールナイトですけれども、残念ながら、インバウンドのお客様はほとんど、二十数名に満たなかったという結果で、おおむね東京都、あるいは都外の遠方からのお客様もたくさんおいいただきましたけれども、希望的には、約半数の方がこのイベントをきっかけに初めてピューロランドを訪れたというところで、やはりナイトタイム、夜のイベントというのが魅力的であるという手応えはございました。

ここで、海外の方にお越しいただけなかったというところの非常に大きな課題感なんですけれども、従前、ここまでのお話し合いの中にもありましたように、チケット購入というところ、周知徹底できていなかったというところが1つ大きな課題でございます。個人確認がなかなか難しいというところでいくと、今後、宿泊施設との連携というのが非常に可能性というか課題感があるかなというふうに思っておりますけれども、その辺り、なかなかチケット購入というところの難しさを感じているところがございます。

そしてもう一つが、これは満足した点のほうでも見てとれるんですけれども、インフラ関係ですね。

インフラの課題というのが4つありまして、これはできている点もあるんですけど、まず、トイレであったり、清潔だったり、先ほど来あったごみの問題。こちらがテーマパーク内であれば、事前にIDの確認であったり、テロの不安なども払拭できているので、ごみ箱さえ置いてあればきれいに片づけられるというところがありますけれども、これが一般の市中になった場合はやはり課題があるなというところと、トイレの問題があるなというところ。

それから、交通インフラ。夜遊んでまたホテルに戻るときに交通インフラが十分でないということになりますと、非常になかなか遊びづらくなりますので、ライドシェアも含めて交通インフラ、バスであったりとか、そういった方法の周知徹底というのはやはり必要かなというふうに思います。

そして、これも何度も出ておりますけれども、言語というところで、こちらでもパーク内であればいろいろなツールを駆使して十分に——十分には言えないですけども、言語対応も可能になってはまりましたけれども、こちらでも市中になった場合に、全ての方たちがなかなかそういったツールを持ち歩くというのも難しいことになるのですけれども、とはいえ、やはりかなりAI・デジタル化によって改善できる可能性はあると思いますので、その辺り、インフラの問題、クリアできると非常に今後の可能性が広がるかなというふうに思います。

そして、インフラの4つ目なんですけれども、医療というところで、もしものときに、保健室であったりとか、そういった簡単な治療ができるような、そういうものの周知徹底というか、そのインフラが整っているということもナイトタイムエコノミーのこれからの課題かなというふうに思っております。

観光の根幹であります非日常であったりとか魅力的なコンテンツづくりというのは、非常に重

要なポイントではありますけれども、そちらをあらかじめ行って探して楽しむというよりは、そういった魅力的なコンテンツがあるから夜を楽しみに日本に来る、あるいは地方から来るというような、そんな魅力的なコンテンツづくりができればいいのかなというふうに思います。

そういった意味では、江戸の魅力というのを非常に連携してたくさん——先ほど石井委員からもライトアップという声が出ていましたし、星野委員からの水路を利用したということも出ていましたけれども、たくさんやれそうな、まだまだ今後の伸び代はあるなというふうに思いましたので、その辺り、協力しながら、連携しながらというところで盛り上げていけるのではないかなというふうに思います。

あともう一点、今、上野の東京国立博物館でハローキティ展というのをやっております。こちら、ニュースにもなってしまったんですけど、初日、ほぼほぼ外国の方が押し寄せたというところで、なぜかというところ、そこでしか買えないとか期間限定というのがやはり大きな魅力になるんだなというのを改めて感じました。

江戸の魅力というところで、なかなか期間限定であるとか、ここならではの限定グッズみたいなものは難しいのかもしれませんが、でも、諦めずに、グッズじゃなかったとしても、期間限定でとか、ここだけで見られるみたいなことを広く発信できれば、それは海外からの大きな訪日の魅力になるのではないかなというふうに感じた次第です。

私からは以上でございます。どうもありがとうございます。よろしく願いいたします。

【佐藤座長】

小巻委員、ありがとうございます。

それでは、会場の委員の方々からも御意見を頂戴いたします。時間の都合もでございますので、石川委員から順に反時計回りでお願いしたいと思います。

それで、最初に御報告をいただきました田川委員と牧野委員は、各委員の方、一巡した後でもし何か追加でございましたら御意見を頂戴したいと思います。

それでは、石川委員、よろしく願いいたします。

【石川委員】

ありがとうございます。動画協会の石川でございます。よろしく願いいたします。

江戸の歴史・文化を活かした観光、それからナイト観光のお話を伺いまして、今後も多くのコンテンツを創り出せると感じました。

我々日本人は江戸の歴史・文化に触れる機会が少ないと感じます。

先程、都の方からもお話がありましたが、まずは江戸を知る、それから発信する、楽しみながら深掘りをしていくことも必要だと思います。

ナイト観光について、アニメーション業界の事例を少しご紹介させていただきます。

初めてアニメーションが劇場公開してから2017年でちょうど100周年になりました。私ども動画協会で行方委員会を組成し、「新宿まちフェス」を開催している新宿の観光振興協会と連携して、新宿の映画館を横断したアニメ上映会を実施しました。

新宿のホテルには、多くのインバウンドのお客様が宿泊していると思います。映画のまち新宿の活性化という狙いも加わり、3年連続して秋に開催しました。

コロナ禍で終了しましたが、アニメ映画祭は、新宿の独立系をはじめ、大型シネコン、それぞれの劇場に固有の上映、トークショーを企画し、夕方以降に開演し電車のあるうちに終演する平日上映と、週末にはオールナイト上映も実施をいたしました。当時は、前売り制のチケットが、ほぼ完売をしていました。

上映プログラムに対応したコラボフードの提供を映画館、最寄りの飲食店で実施し、国内在住の多くのアニメファンの皆様にもご参加いただきました。

アニメを見る機会を創出するだけでなく、エリア特性の食とアニメ作品との固有なコラボを演出することで、ユニークなアニメツーリズムのイベントに発展するのではないかと考えております。

先ほどお話がありましたが、チケットをスムーズに手に入れていただくための方法については、前売りチケットの活用などが課題になると考えています。

そして、先ほどキティちゃんイベントのお話がありましたが、今アニメのイベントも色々なところで開催しています。

そのような情報をどこで流すべきか、そしてその情報を発信することで、新宿だけでなく様々な場所で開催されているイベントに、インバウンドの方や東京にいらっしゃる旅行客の方々が注目し、参加していただけたと考えており、そのような情報を皆さんと共有したいと思っています。以上でございます。ありがとうございました。

【佐藤座長】

石川委員、ありがとうございました。
それでは、次は、鎌田委員、よろしくお願いいたします。

【鎌田委員】

鎌田です。御説明ありがとうございました。
提案されている内容については、私は専門的ではありませんので、よろしいかと思えます。特にナイトタイム観光に関しまして、住民を考えるとというのは非常に重要な視点だなというふうに改めて思った次第です。

私のほうからは幾つかなんですが、資料7のナイトタイム観光の調査の概要というところなんですけれども、せっかくいろいろ調査されているのにあまりにざっくりしているというのと、2,009サンプルあって、それから5か国の人に調査をしながら、基本統計量を書いていないので、どういうサンプルサイズで構成されているのか分からないんですけれども、ぜひクロス集計はせめてやっていただきたいなというふうに思います。

それから、項目についてですけれども、ナイトタイムならではの項目がありながらも日中の項目も含まれているというところで、一体何を聞きたい調査なのかなというのが正直な感想です。ここで挙げられたところが、不満なところがある、問題点があるというふうに認識するのはいいと思うんですが、なのでやめましょう、これをこういうふうにしましょうという対処療法を考えていても、サステナブルではないのかなというふうに考えた次第です。

それから、江戸とかナイトタイムとか、いろんなコンテンツを開発しながらやっていくというのは非常にいいことだと思うんですけれども、やはり今の全てのビジネスという意味での根底で言うと、どこも人手不足の現状と。これは深刻な問題だと思います。ですので、例えば江戸の文化をみんなに知ってもらいましょう、ツアーをつくりましょう、あるいはナイトタイムでもっとみんなに楽しんでもらいましょう、飲食店をやりましょうと言ったところで、やはり人手不足の問題、これを解決しない限りは、コンテンツを活かすということは無理だと思います。ですので、都が支援するというのは非常にいいことだと思うんですけれども、根本的に支援すべきは、こういった人手不足とかビジネスが抱えている構造的な問題、こちらのほうに目を向けるべきではないかなというふうに思います。

それから、こういう場で言うてはいけないのかもしれないんですが、3月だったと思うんですけれども、プロジェクトマッピング、たまたま都庁舎のところを拝見しまして、それ自体はとてもよかったんですけれども、帰ろうとしたら、「本庁舎の中には入れません」と言われて、ぐるっと回って大江戸線の駅に降りなければいけなかったというのがありました。私は今のところ健康体ですので何とか行けましたけれども、体が不自由な方とか、あるいは高齢の方とか小さいお子さんとかは、結構負担になったのではないかなと思います。何かやるのはいいんですけれども、ぜひそういった一般的に使われている交通の問題ですね、こちらのほうをきちんと保証していくというか考えて一体的にやらないと、こういったことは難しいのかなと思った次第です。

以上です。

【佐藤座長】

鎌田委員、ありがとうございました。
それでは、次は、滝委員、よろしくお願いいたします。

【滝委員】

観光は日本に残る代表的な成長産業といえますか、雇用を考えてとても大切にしなければいけない産業だと思うんですね。ですから、そういう意味では、それを東京都が応援するというのもとても大切なことだと思っています。

事例で、コンテンツを守るという面とコンテンツを利用するという面でお話ししたいと思いま

す。上野公園・谷根千という領域をちょっとお考えいただいたときに、例えば谷中の街は欧米の人に大変親しまれているわけです。お寺も多いですし、いろんな意味でですね。しかし、お住みになっている人が高齢化の中で相続税の問題などを抱えていて、街並みにも影響がある。やっぱりここは税制の問題とかファンドの問題とか、いろいろ行政や都が応援しなきゃいけない問題じゃないのかなと思います。

それから、いまあるコンテンツを利用するという意味で、ナイトライフにかかわる事例といえますか、この上野公園の周辺というのはたいへんな文化ゾーンで、美術館、博物館など代表的なものが60近くあるんですね。みんなこれが午後の6時頃に閉まってしまうわけです。長期的な意味での地元の雇用創出も含めた中で、その活用ができないものかと。案内する人の教育の要素、夜の時間帯に開けることとチケットとの関係、あるいは海外に対してのPRなどが必要かもしれませんが、このコンテンツをナイトライフの充実に役立てられないかと思います。60近い施設が集まる文化ゾーンは、日本の中でも大変な存在感があるような気がしています。

そういう意味では、ナイトライフをつくるといいますか、夜の時間に開けることで、それらを守ることに、藝大があったり東大があったり地元の人がいますので、そういうある種の教育を含めた中で雇用創出にもつながりますし、60あるものが常に30か20開いている形を取れば、すばらしいナイトライフ、世界に宣伝できる歴史的なまちの魅力宣伝につながるんじゃないかなと。思いつきですけど。

【佐藤座長】

滝委員、ありがとうございました。

それでは、次は、アトキンソン委員、お願いいたします。

【アトキンソン委員】

3つあります。

江戸のアピールはいろいろ書いてありますけども、具体的に歴史・文化の何をどうやって誰に伝えるのかということとは不透明でありまして、同時に、どこで、具体的に何を伝えるのかもここでは判断ができない状況になっていますので、もっと具体的な話をさせていただきたいと思います。同時に、オリンピックの委員会するときにもありましたけれども、普通の人が勝手に想像している江戸の文化・歴史と専門家が認めるものは全く違いますので。有識者の中でもやっぱり一般的に言われていることが必ずしも正しいというわけではないので、きちんとした形で事実を1回確認するべきものではないかというふうに思います。オリンピックのとき、有識者の中で、人間国宝でもいろんな発言があって、大学の教授、東大等々で確認したところで、いや、それは俗説にすぎないということは多々ありました。特に、時代によりますけども、江戸の場合は大体3分の2は男性だったということを見ると、それはどういう形でそれを伝えていって、それは江戸の文化というよりは男性の文化じゃないのということも考えられるので、人口などのところで表面的な話にならないようにきちんとした歴史の検証が必要であって、みんなそう思っているんだから、気軽にそれを伝えることは危険なことだというふうに思います。

2つ目のところなんですけど、星野さんの御指摘にもありますように、外国人が決まったところに集中しているということが書いてありますけど、それはなぜかという、やはりいまだにネット予約ができないレストランが非常に多くて、できるとしても当日、翌日、翌々日はできないということはいっぱいあります。そうすると、ネット予約の形を取っているんだけど実はそうになっていないということなので、ネット予約ができるところに集中をしてしまうということは普通の動きになっています。特に外国人の場合は、当日、翌日——せいぜい翌日ぐらいで、ほとんど大半は当日で予約しているということをデータで確認はできますので、都としては、やはりネット予約ができるように促進をすると同時に、支援が必要であれば、それもデジタル化の時代でするので必要であるというふうに思います。

チケットの問題なんですけど、本人確認ができるできない云々ということは、要するにやらないための口実になっているという感じはします。世界どこを見ても、本人確認が必要なナイトタイムエコノミーのIDチェックというのは、さっきいろいろネットで調べたんですけど、どこにも出てこない。多分、それで、要するに転売の形をつくっていないから本人確認が必要であるということだと思いますけれども、本人確認のためのどうのこうのということじゃなくて、それ

は転売の形がちゃんとできていないということだと思います。不正のどうのこうのというよりは、別に払っているのであれば誰だって来てもいいんじゃないのと思いますけど。そうじゃなければ、やっぱり高く売るといことは問題だというふうにはなっていますけども、それはいつも申し上げているように、ああいうロンドン、ニューヨーク等々ではネットで転売することが正式なルートでしかできないという形を整えていって、または、転売することをその価格でできるような形をつくれれば、ぼったくりはできなくなってしまうので、そうするとその本人確認をしなきゃいけないという問題が消えてしまいます。ですから、本人確認というのはあくまでも転売を認めないから必要になるわけなのであって、じゃあ、転売をきちんとした形で、非常に高い値段で転売ができないような形をすればいいだけの話であって、そういう本人確認のどうのこうのというどこもやっていないようなことを1つの壁として見せかけることはやめていただきたいというふうに思います。

何しろ、やっぱりそういうチケットサービスというのは、ネットの予約で転売ができる形を整えていくということが1つの問題ではあると同時に、今までは必ず完売ができたという、短い期間にだけ供給を制限して自分たちは完売ができたという自慢ができるために、ナイムタイムエコノミーに対して悪影響を与えることも芸能の皆さんにやめていただきたいと思います。

以上です。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

それでは、山田委員、お願いいたします。

【山田委員】

御説明ありがとうございました。

3分ということで、まず、江戸に関しては……

【佐藤座長】

四、五分で結構です。

【山田委員】

ありがとうございます。

今、いろんなサステナブル議論とかが出るときにも、やっぱりこの江戸時代のサーキュラーエコノミーというのがすばらしかったということで、いろんなところでモデルとしてまた出始めているので、先ほどどなたかの御意見でもありましたが、そこら辺も込みで入れていくといいのではないかなと思いました。

結構いろんな国の大使とお話することがあって、日本のどこが一番好きというか、どこがすごいと思うというのを必ず聞くようにしていて、最近ですと、エマニュエル大使が、やっぱり安全である。これは私たちは当たり前とってしまうと思うんですけども、先ほどの資料にもあった、250年以上の見地で庶民のリテラシーが高い、そこが安全である。ここら辺も江戸のところからつながっているのではないかなというふうに思いました。

実は私、来週、クールジャパン DX サミットというものに出るんですけども、DX というのがもう日本は遅れてしまっていると思っています。デジタルイゼーションとDXの差も多分分かっていなくて。これからは、例えばフィードバックとか、データを取るとか、いろんな話がさっきも出ていましたけれども、それをどういうふうに活用して、AIにファインチューニングさせて学んでいくかということにつながっていくと思っています。もちろん、必要最低限なデジタルイゼーションとかというのは必要なんですけども。

お恥ずかしながら、うちの息子は今小学生で、海外で生まれて、ハーフで、漢字がなかなか読めない。でも、基本的にこの携帯で全然生きていけてしまっている。今、こういうAppでできることというのはどんどん普通にできてしまっているけれども、先ほどデービッドさんの話もありましたけども、例えばネット予約とか、そういうこちら側でできないところのOS、やっぱりどんどん日本は今遅れていますけれども——世界がいろんなものを作ってくれるものを活用してできるところというのはいいとしても、こちら側の受入れ側でやっていかなきゃいけないところのAI化というのは、きちんと対応していかなきゃいけないのではないかなと思います。

言葉、言語の問題とかというのも、これもちょっと年齢の問題なのかなと思っています。いらっ

しゃる方も、高齢の方は、慣れていらっしゃらないので、やっぱり言葉がそのまま自分の言語でなければいけないけれども、今の若い子たちは、日本人でも、英語圏でない、イギリスに行こうがフランスに行こうが携帯1つで問題なく過ごしている。日本に住んでいるエクスパットの子どもたちも住んでいる。もちろんデジタルライゼーションは必要ですが、もう少しAIというものをきちんと活用していくということも大事なのではないかと思います。

特に、今、食とか観光とか人手不足の話がさっきありましたが、ここら辺もAIで大分解決できる場所があると思うので、そこら辺の見地というのをもう少しきちんとしていくことが大事だと思いました。

ナイトタイムエコノミーに関しては、ナイトタイムエコノミーというぐらいなので、やはりマネタイズというところもある程度考えないといけない中で、例えば日本に来る理由の夜の一番は、今、夜桜だと思うんですけど、夜桜は、やっぱり夜、住民とのいろいろな兼ね合いがあったりする割にはほぼマネタイズはできていない。むしろライトアップとかでお金がかかっている。ここら辺をどういうふうにすみ分けをしていくのかということと、海外だとやはり、特にロンドンとか、24時間バスが通っていたりとか。ここら辺の、もちろん二次交通とかもあるんですけど、いわゆる一般の方が使う公共交通というのをきちんと。これ、鶏が先か卵が先になるかだと思ってしまうんですけど、公共のものが無いからレストランも早く閉まるし、夜のイベントなども少ない。でも、じゃあ、どっちを先にするのかということなんですけど、これはうまくやっぱり民と官が連携して、もう少し夜の時間を延ばして遅くまで活動できるようにするというのが東京都としてやっていくのにとっても価値のあることなのではないかなというふうに思っています。

以上です。

【佐藤座長】

山田委員、ありがとうございました。

それでは、次は、田川委員、いかがでしょうか。もうよろしゅうございますか。追加の意見を頂戴できればと思います。

【田川委員】

ありがとうございました。

部会を3回やりましたが、正直言って3回じゃつまらなかったなど。つまらなかったというのは、短過ぎるという意味で。1年ぐらいやってもいいんじゃないかというぐらい、特に徳川宗家19代目の方は知識が高いので、やっぱりそういう話はもっと聞くべきだったんじゃないかと。

そういう意味で、デービッドさんが言われたとおり、話は方向性だけしか今出ていませんが、具体的なアクションプランをこれから先どうつくるかということになるのかなと思います。

来年の大河ドラマが「べらぼう」という、蔦屋重三郎ですね、浮世絵とか吉原の話が出てきますけれども、一番江戸時代の中では文化が栄えた時期の話を1年間やります。歴史と大河ドラマが合っているかどうかは、今のデービッドさんの言われる検証が必要なのもかもしれないけど、いずれにしてもそういうものが来年出ますが。

いずれにしても、江戸時代に二百五、六十年間培っていた、特に徳川眞木さんがおっしゃっていたんですけど、藩邸ですね、庭というか。これは、どうしても建物しか気にしていなかったんですけど、藩邸——藩邸は、例えば椿山荘なんかも元藩邸なんですけども。小石川後樂園とかはみんな藩邸、庭がありますが。水戸ではそれを大事にしていろいろやっているという話を聞いて、そういう意味では、水路と藩邸というのはセットで動いているので、そういうものはもう少し、知っているんだけど、あんまりお庭を見に行っただけが多い方が多いので、建物の話ばかりなんですけどね。

それから、石垣だとか、そういう土木的なものについても、これは多分「ブラタモリ」的に言う興味のある方は結構いらっしゃる。だから、昔、海外から来た方に二条城を説明するときに、日本人は瓦何枚とか畳何畳とか、そういうのをすごく喜ぶんですけども、外国人はそんなことはどうでもよくて、要するに、この二条城は何のために造られて、何のために有名になったのかという背景を知りたいと。

私は、やっぱり江戸の文化を、これから醸成的には、やっぱりその背景があるものをちゃんと

裏づけをつくって伝えていくということがアクションプランの中で必要なんじゃないかなという感じを持っています。

そういう意味では、先ほどここでしか買えないものとか、ここでしか見られないものとかと。要するに、限定というか、ブランディング的に言うとオリジナリティの高いもの、そういうものを選んで、少し具体的にアクションプランの中で、観光財団等々に、あるいは民間と協力してやっていくというプランを2025年の中では実施していくべきなのかなと思います。

それはさっきデービッドさんが言ったように、来年万博があって、外国人旅行者の来る数が全国では6,000万という数字——2030年でだけ。1回、確かに頭打ちになると私も想定しているので、東京に来る人数も頭打ちになる。そうすると、何回も来ている人は、多分万博のほうへと、西へ動く可能性があるのですが、東京としてはどういうことでやっぱり止めるかということ——世界陸上とか、そういうところのイベントではいいんですけどもね。やっぱり本質的なところで、例えば我々はロンパリオーマに行きたいみたいなどの部分をどういうふうに止めるかというのは、もう一度しっかりと考え直して、18年、19年とは違って、パンデミックを経た中で新しい、それが1つは江戸文化、1つはナイトタイムだというふうに理解をしていただいたほうがよろしいのではないかなというふうに思います。

以上です。

【佐藤座長】

田川委員、ありがとうございました。

それでは、牧野委員、次、お願いいたします。

【牧野委員】

江戸のほうも少しコメントさせていただいて、その上でナイトタイムの補足を、コメントいただいた点についてお話しできればと思います。

ちょっと江戸のほうは簡単に。

江戸の認知度を上げることの世界発信について先ほど説明があったと思うんですが、なかなか世界に江戸を伝えるということは難しいと思いますので、情報発信でやっていくというよりは、まず来てくれた人たちに江戸について知ってもらうというほうが効率的というか簡単だと思いますので、2点考えていまして。

まず1点は、先ほども言われていましたが、江戸博がリニューアルされるので、江戸博の活用をして、東京に来て、江戸博に行ってもらって、江戸文化、東京を知るきっかけとなるビジターセンター的な位置づけとして活用してもらおうということをやれば良いと思います。あの中で、例えば江戸に関わるようなものが現在も息づいているような場所はどこかということを紹介することもあると思いますし、ツアーですね、ガイドツアーみたいなものが江戸博から出るようなことでも良いと思いますので、そのような江戸博の活用をしていただければと思っています。2019年以前、江戸博はもともとトリップアドバイザーでも人気の場所でしたので、またリニューアルすれば人は戻ってくると思いますので、ぜひ活用いただければと思います。

2点目は、何が江戸に関係するかということ、日本人でもなかなか分かりづらいところだと思いますので、例えば外国人に人気の食というところで、これが江戸起源ですよというようなことだったりとか、例えばイベント的なものであっても、隅田川の花火大会がもともと大川の川開きだったところだったというような形で、今実際に体験している、経験している、買っているものとか、これは実は江戸起源ですよということを知るような何かきっかけとか、それはブランド認証なのか、どんな形か分からないんですけど、そういったものをする中で、自分たちの日常、あるいは観光で来た中で、これが江戸につながりがあるということが分かるような仕組みづくりがあったらいいんじゃないかなというふうに思ったというのが江戸に関してです。

ナイトタイム観光の話なのですが、今回、部会のゴールが、田川さんもおっしゃっていたとおり、3回で方向性をつくるという形だったので、なかなか細かいところまでお話しできなかったところで御指摘されているところがあったかなと思っています。

まず1点目は、アトキンソンさんがおっしゃられたレストランの店舗の予約、個人的にも非常に課題だというふうに思っているところです。今回、コンテンツで考えていたので、レストラン予約のところは見えていなかったところではありますが、実際に僕自身もヨーロッパに旅行してみ

でも、レストラン予約でオンラインで予約できないところはないんじゃないかなというぐらいに普及しているので、これは外国人にとってみると電話で予約するとかはかなり不便なので、ネット予約はネット予約として、これはナイトタイムかかわらず多分やるべきだろうなというところだと思うので、別途考えなければいけないところだと思ってお聞きしていました。

2点目は、チケットの本人確認の点ですね。まさに御指摘のとおりで、不正転売防止のために本人確認という話をしていて、今回、笹井委員からお話いただいたのは、結局、人気があって不正転売を防止しなければいけないような例えば劇とかコンサートみたいなものは、正直外国人の方に買われなくてもいいというようなところがあって、その対応が遅れているというようなことは部会の中でも話が出ていました。なので、そういう意味では御指摘のとおりで、不正転売対策のための本人確認が問題なのではなく、外国人観光客に売るまでのインセンティブがないというのが現状というところは御理解のとおりだと思っています。これはこれでまたちょっと、ナイトタイムの問題ではなく、別の課題として考えなければいけない点だと思いました。

3点目が山田さんに御指摘いただいたマネタイズの観点なんですけど、今回、東京の夜はつまらないということをどうするかというところがももとの部会の課題となっていて、その中で、本当につまらないのかというところの議論をしたところから成っていました。なので、収益化をどんな形にするかという議論よりも、まずコンテンツが何があるか、それがちゃんと情報として伝わっているかというところの議論だったので、そのポイントがまだできていないというのは御指摘のとおりだと思っています。

その中で、恐らく、今回、2点目で旗印になるようなイベントが必要ではないかみたいなものでいくと、もしかすると、マネタイズの視点も、直接的に売って、例えばチケットを売ることによって収益化するというところだったりとか、イベントがあることで人が集まって近隣の経済が発展するというところで間接的な収益化であったりとか、あるいは、世界に誇るようなイベントをつくるということで、人が東京に来るというために比較的投資的な形でやるかというのは非常に経営的な判断な部分になってくると思いますので、ナイトタイムをどうつくっていくかというところに関しての中で今後議論が必要だというふうに理解しています。

以上です。ありがとうございます。

【佐藤座長】

牧野委員、ありがとうございます。

それぞれの委員から御意見をいただきましたが、今の各委員からの御意見を踏まえてちょっとこういうことを言いたいということがもしありましたら、まだもうちょっとだけ時間がありますので、いかがでしょうか。

【田川委員】

アンケートの中で、ナイトタイムのところなんですけども、夕食の時間とか、そういう話があったんですけど、先ほど鎌田先生からもお話があったんですけども、ちょっとデータの取り方が、クロスをやっていないので。例えば欧米人とアジア人と少し時間が違うんじゃないかと。私が国際会議でよく行くと、大体夜の食事は8時過ぎですよ。終わるのは11時頃かな。その間の6時から8時は何をやっているかという酒を飲んでいるという、そういう生活様式を持った人が多分いろんなビジネスでも来るし、観光でも来ているので、結構夜の遅い時間に食事をスタートするんじゃないかなと。そういうのをクロスして、これから外国人に対してどういうふうに食事を提供するかという1つのモデルをやっぱりつくるべきじゃないかなというふうに思いました。

以上です。

【佐藤座長】

ありがとうございます。

ほかに、よろしゅうございますか。

【山田委員】

先ほど都知事からも、それぞれのというふうにおっしゃって、今の田川委員の意見と一緒にすけれども、例えば、じゃあ、日本に来る理由も、今、欧米の方は体験、でも、やっぱり中国の方は薬局なんかが好き。皆さん行動範囲が違って、これはやっぱりきちんとAIというものを活用して使っていないと、日本は本当に遅れてしまうんじゃないかなという危機感があります。例えば

Uber を日本が締め出したと。でも、結局、今何が起きているかというところ、中国の白タクが蔓延して、結局、マネタイズが海外でされている。

先ほどのチケットの話も、私、海外で年間 10 回ぐらいコンサートとかプレミアリーグとかを見に行くんですけども、自分のメールアドレスを登録して、1 時間前に届くんですね。なので、そういうところで転売とかの危機を避ける。やり方がいろいろあると思うので、日本のやり方だけでなく、いろいろと視野を広げて見ていくと、日本のほうが進んでいることでもあります、海外からのいろいろな AI・IT 技術というところに関しては、学べるところも取り入れていくのもありなのではないかなというふうに思います。

以上です。

【佐藤座長】

ありがとうございました。

まだまだ御意見等もおありかと存じますけれども、時間の関係もありますので、この辺りで意見交換は終了とさせていただきます。

本日は、委員の皆様から多様な、かつ貴重な御意見を賜り、ありがとうございました。

本日報告のありました江戸の歴史・文化部会とナイトタイム観光部会における議論及び本日委員の皆様からいただきました御意見については、今後の江戸の歴史・文化の活用やナイトタイム観光の充実についての取組、さらには、東京都の来年度予算における観光振興関連施策に効果的に反映させていただくよう事務局に対してお願いをいたします。どうぞよろしくお願いをいたします。

それでは、事務局にお返しいたしますので、連絡事項等がありましたらお願いいたします。

【江村観光部長】

本日は、貴重な御意見を賜りまして、誠にありがとうございました。

委員の皆様からいただいた様々な御意見につきましては、今後の施策に生かしてまいります。

次回の開催は来年 2 月頃を予定しております。

事務局からは以上でございます。

【佐藤座長】

それでは、以上をもちまして本日の会議を終了いたします。

皆様、どうもありがとうございました。